

# 史跡岡豊城跡保存管理計画書



平成 24 年 3 月

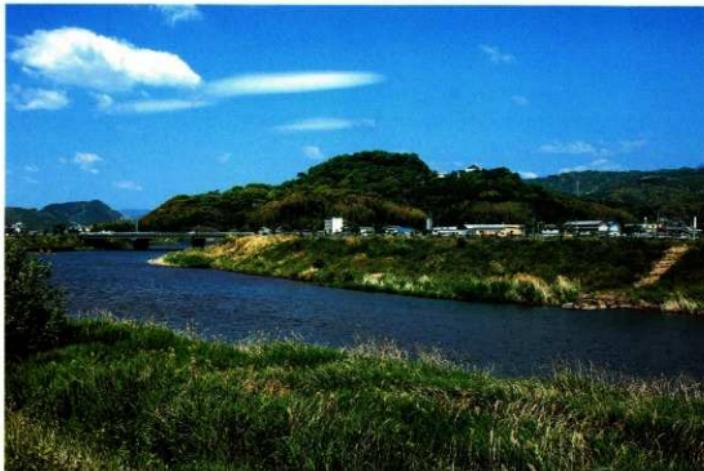
高知県南国市  
南国市教育委員会



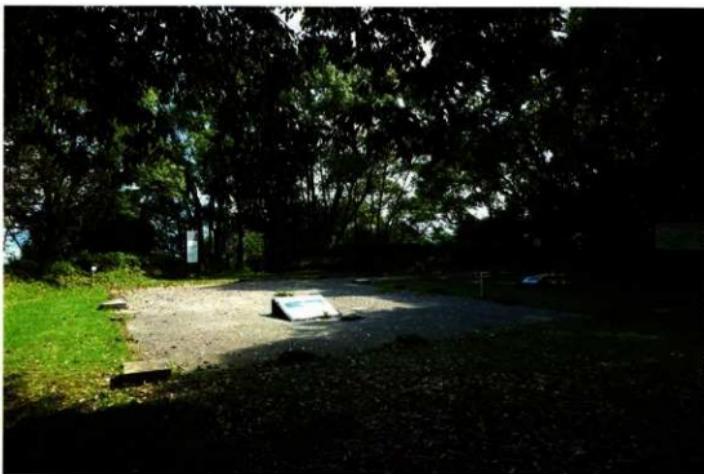
南西上空から見た岡豊城跡



上空から見た岡豊城跡（2010年撮影）



国分川から見た岡豊城跡



詰

## 序 文

南国市は物部川と国分川に育まれた肥沃な香長平野に抱かれ、太平洋を望む海岸線から四国山地に連なる山間部と広い市域を持っています。温暖な気候にもたらされる豊かな自然の幸に恵まれ、古から人が生活を営むのに適した場所であり「土佐のまほろば」と言われています。

市内には数多くの遺跡が所在し、代表的なものとして弥生時代の拠点集落である田村遺跡群、紀貫之の土佐日記にも記される土佐国衙跡、中世守護代細川氏の居館である田村城跡などをあげることができます。長らく土佐の政治と文化の中心地であったこの地には、国史跡の比江磨寺塔跡や国分寺遺跡群、国の重要文化財の国分寺金堂をはじめとする多くの文化財も地域の伝統・文化とともに受け継がれています。

岡豊城跡は、中世の「土造りの城」から近世の「石造りの城」へと土佐の城造りの変遷を知ることのできる貴重な遺構の残る城としてその価値が認められ、平成20年7月に本市で3件目となる国史跡として指定されました。この指定を契機に岡豊城跡はあらためて注目されることとなり、近年の歴史ブームによって全国的に長宗我部元親が人気を集めることもあり、岡豊城跡を訪れる人が増えています。また、史跡めぐりやボランティアガイドの育成など、岡豊城跡を中心として周辺の史跡をも活用した活動も活発になってきました。

私たちが自分たちの住む地域の歴史や文化を知ることは、地域に愛着と誇りを持つことに繋がります。さらに次世代を担う子どもたちにもこうした気持ちを育んでもらいたいと思います。そのためにも貴重な文化遺産である岡豊城跡をその価値を損なうことなく後世へと末永く伝えいくことは、現在を生きる私たちに課せられた大きな責務です。

南国市は「史跡岡豊城跡」の管理団体として今後の史跡の保存と管理を適切に行っていくため、平成22・23年度の2ヵ年をかけて保存管理計画を策定いたしました。また、将来の岡豊城跡の保護のため、指定範囲外の地域についての保護方針も盛り込みました。本書がこれから岡豊城跡の保存管理とともに地域の文化活動、文化財保護活動の一助となれば幸いです。

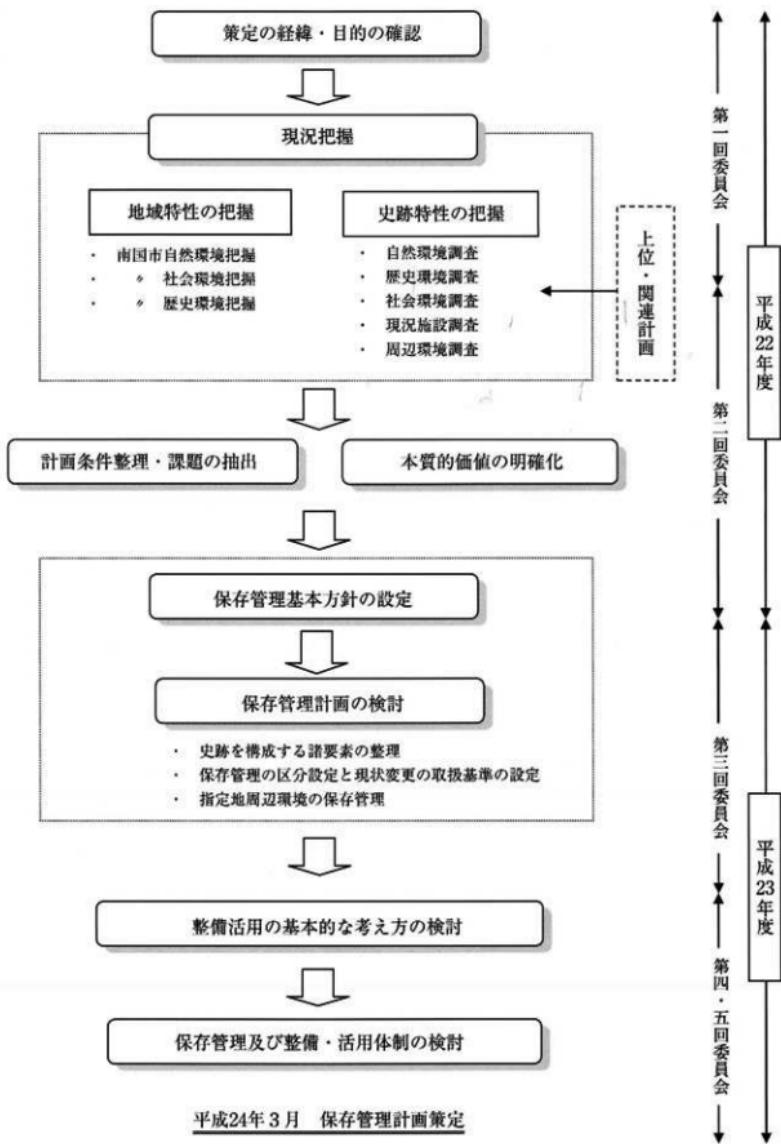
最後になりましたが、本計画の策定にあたりご尽力いただきました策定委員の先生方をはじめ、文化庁、高知県教育委員会、ならびに史跡の保護についてご理解・ご協力を賜りました土地所有者の皆様ほか関係の方々に心からお礼申し上げます。

平成24年3月  
南国市長 橋 詮 壽 人

## 例　　言

1. 本書は、高知県南国市岡豊町に所在する国指定史跡岡豊城跡の保存管理計画書である。
2. 本書では、国指定史跡である「史跡岡豊城跡」のほか、便宜的に指定外の城域までを対象として保存管理の指針を定めている。
3. 本保存管理計画策定事業は、南国市教育委員会が主体となり、平成 22 年度から 23 年の 2 カ年にわたり、国庫補助金の交付を受けて実施した。
4. 本計画は、平成 22 年度・23 年度にかけて設置した「国史跡岡豊城跡保存管理計画策定委員会」における協議・検討によりまとめられたものである。また、その策定にあたり、文化庁文化財部記念物課及び高知県教育委員会文化財課の指導・助言を受けた。
5. 本計画策定にあたり、史跡指定地及び周辺の現況測量を株式会社四航コンサルタント、縄張調査を池田誠 氏（中世城郭研究会）、植生調査を黒岩和男 氏（元高知県植物辞典編纂委員）、鴻上泰 氏に依頼した。調査成果は南国市生涯学習課が保管・管理している。
6. 本計画策定に係る事務、本書の執筆・作図・編集は、「国史跡岡豊城跡保存管理計画策定委員会」における協議結果を踏まえ、南国市教育委員会生涯学習課が担当し、その一部を株式会社都市景観設計に委託した。
7. 本計画策定にあたり、文化庁文化財部記念物課、高知県教育委員会文化財課、高知県文化生活部文化・国際課、高知県立歴史民俗資料館、（財）高知県文化財団埋蔵文化財センターから、ご協力と助言をいただいた。

## ◇国史跡岡豊城跡保存管理計画策定フロー



# 目 次

## 巻頭写真

## 序文・例言

## 国史跡岡豊城跡保存管理計画策定フロー

### 第1章 沿革と目的

|                         |   |
|-------------------------|---|
| 1. 計画策定の沿革と目的 .....     | 1 |
| 2. 計画策定の経過 .....        |   |
| 1) 保存管理計画策定委員会の設置 ..... | 2 |
| 2) 保存管理計画における調査 .....   | 4 |
| 3) 計画策定の経過 .....        | 5 |

### 第2章 計画の背景

|                   |    |
|-------------------|----|
| 1. 南国市の概要 .....   |    |
| 1) 南国市の位置地形 ..... | 6  |
| 2) 南国市の社会環境 ..... | 7  |
| 3) 南国市の歴史環境 ..... | 8  |
| 4) 南国市の文化財 .....  | 11 |
| 2. 上位計画 .....     | 13 |

### 第3章 史跡岡豊城跡の指定概要

|                      |    |
|----------------------|----|
| 1. 岡豊城跡の地理的環境 .....  | 16 |
| 2. 史跡指定概要 .....      |    |
| 1) 史跡指定に至る経緯 .....   | 17 |
| 2) 史跡指定内容と史跡範囲 ..... | 18 |
| 3) 岡豊城跡の構成 .....     | 21 |

### 第4章 史跡岡豊城跡の現況

|                         |    |
|-------------------------|----|
| 1. 歴史的環境 .....          |    |
| 1) 岡豊城跡の歴史 .....        | 23 |
| 2) 岡豊城跡略年表 .....        | 27 |
| 3) 歴史文献資料 .....         | 28 |
| 4) 発掘調査概要 .....         | 28 |
| 5) 城郭遺構の現況と岡豊城の縄張 ..... | 37 |
| 2. 自然的環境 .....          |    |
| 1) 地質 .....             | 47 |
| 2) 植生調査方法 .....         | 47 |
| 3) 植生調査 .....           | 49 |
| 4) 植物相調査 .....          | 57 |
| 5) 植物種調査 .....          | 59 |

|                           |           |
|---------------------------|-----------|
| <b>3. 社会的環境</b>           |           |
| 1) 各法令における規制 .....        | 67        |
| 2) 土地所有状況 .....           | 68        |
| 3) 土地管理状況 .....           | 68        |
| <b>4. 景観 .....</b>        | <b>71</b> |
| <b>5. これまでの整備の経過と利用状況</b> |           |
| 1) 整備状況と現況施設 .....        | 74        |
| 2) 現況利用状況 .....           | 77        |
| <b>6. 岡豊城跡の価値と現況課題</b>    |           |
| 1) 岡豊城跡の価値 .....          | 79        |
| 2) 現況課題 .....             | 79        |

## **第5章 保存・管理**

|                                  |           |
|----------------------------------|-----------|
| <b>1. 保存管理基本方針</b>               |           |
| 1) 保存管理計画の対象範囲 .....             | 80        |
| 2) 保存管理基本方針 .....                | 80        |
| <b>2. 史跡を構成する要素の整理 .....</b>     | <b>81</b> |
| <b>3. 保存管理の地区区分と保存管理方法 .....</b> | <b>90</b> |
| <b>4. 現状変更の取扱基準</b>              |           |
| 1) 現状変更の取扱基準の共通事項 .....          | 92        |
| 2) 各地区の現状変更の取扱基準 .....           | 95        |

## **第6章 整備活用の基本的な考え方**

..... 97

## **第7章 保存管理及び整備活用体制の基本的な考え方**

..... 99

## **第8章 今後の課題**

|                                      |            |
|--------------------------------------|------------|
| <b>1. 史跡指定地外の保存管理、追加指定の考え方 .....</b> | <b>100</b> |
| <b>2. 城下町エリアについて .....</b>           | <b>100</b> |
| <b>3. 周辺地域の景観保全について .....</b>        | <b>101</b> |

## **付 図**

- 平成 22 年度史跡岡豊城跡地形測量図
- 平成 22 年度史跡岡豊城跡赤色立体地図
- 平成 22 年度史跡岡豊城跡赤色立体地図（拡大）

## 第1章 沿革と目的

---

### 1. 計画策定の沿革と目的

岡豊城跡は高知県のはば中央、高知平野北辺の国分川に面した標高 97 m の岡豊山に築かれた戦国期城郭で、戦国大名、長宗我部氏の居城である。長宗我部氏が岡豊山を居城としたのは 15 世紀代と考えられており、16 世紀初頭に一度落城したが 16 世紀後半まで存続した。岡豊山東麓には戦国期の城下町が想定されており、戦国期城下町の基礎的研究が最初に行われたのがこの岡豊城下町である。全国的にも歴史地理学的研究の中で、「長宗我部地検帳」などの文献資料を駆使した戦国期城下町研究の嚆矢となった遺跡である。

岡豊城跡は、昭和 60 年度から本格的な発掘調査が行われ、平成 3 年の高知県立歴史民俗資料館環境整備工事において、盛土による遺構保護、遺構復元、利便施設設置等の公園整備が行われ、一定の遺跡の保護、整備活用が行われてきた。そして、四国の戦国期城郭を代表する遺跡であり、長宗我部氏が土佐一国から四国に支配を広げる過程や、農臣体制へ組み込まれる変遷を内包した極めて重要な城跡であるとして、平成 20 年（2008 年）7 月 28 日、国の史跡指定を受けた。これにより、さらなる岡豊城跡の保護が重要となり、史跡の追加指定も視野に入れ、岡豊山全城域や城跡周辺の遺跡の解明、保護も急がれる。そこで、岡豊城跡を貴重な文化財として適切に保存し、その歴史的価値を広く後世に伝えるために、史跡指定地を対象に保存管理計画を策定するものである。

保存管理計画策定にあたり、岡豊城跡について歴史・自然・社会的側面から調査を行い、本質的価値の明確化、遺跡を構成する諸要素を整理することで、それらを適切に保存管理していくための基本方針、方法、現状変更等の取扱基準を示す。そして、今後多くの人々が歴史学習や憩いの場、あるいは地域活動の拠点として活用できる岡豊城跡の将来像を検討し、整備活用の基本的な方向付けを行うことを目的とする。

## 2. 計画策定の経過

### 1) 保存管理計画策定委員会の設置

保存管理計画策定に当たっては、国の補助事業として平成 22 年度から平成 23 年度の 2 ヶ年にかけて、学識経験者等から構成される「国史跡岡豊城跡保存管理計画策定委員会」を設置し、計画内容の検討・協議を進めた。また、委員会にはオブザーバーとして文化庁、高知県教育委員会、その他関連部署の出席を得た。

#### ◇国史跡岡豊城跡保存管理計画策定委員会設置要綱

平成 22 年 6 月 1 日

##### (設置)

第 1 条 史跡岡豊城跡の保存管理計画策定事業を適正に実施するため、史跡岡豊城跡保存管理計画策定委員会（以下「委員会」という）を置く。

##### (会務)

第 2 条 委員会は、史跡岡豊城跡の保存管理計画策定事業（以下、「事業」という。）に関して審議を行うものとする。

##### (組織)

第 3 条 委員会は、委員 10 名以内をもって組織する。

2 委員は考古学、歴史学等に関して専門的な知識を有する者及び地元代表者、関係する行政機関のうちから教育長が委嘱する。

##### (任期)

第 4 条 委員の任期は、当該事項に係る事業が終了するまでとする。

##### (委員長等)

第 5 条 委員会に委員長及び副委員長 1 名を置き、委員の互選により定める。

2 委員長は委員会を代表し、会務を掌理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し委員長事故あるときは、その職務を代行する。

##### (会議)

第 6 条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

##### (報酬等)

第 7 条 委員の報酬及び費用弁償は、南国市特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償支給条例（昭和 34 年南国市条例第 39 条）のその他の委員の規定を準用する

##### (庶務)

第 8 条 委員会の庶務は南国市教育委員会生涯学習課において処理する。

##### (その他)

第 9 条 この要項に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

##### 附 則

この告示は、平成 22 年 6 月 1 日から施行する。

◇国史跡岡豊城跡保存管理計画策定委員会 委員名簿

| 区分     | 氏名    | 所属                                 |
|--------|-------|------------------------------------|
| 委員長    | 宅間 一之 | 高知県立歴史民俗資料館 館長（考古学）                |
| 副委員長   | 中井 均  | 滋賀県立人文学部地域文化学科 准教授（中世城郭）           |
| 委員     | 大谷 英人 | 高知工科大学システム工学群建築・都市デザイン専攻 教授（まちづくり） |
| 委員     | 清家 章  | 高知大学人文学部 教授（考古学）                   |
| 委員     | 津野 優明 | 高知大学人文学部 教授（文献史）                   |
| 委員     | 黒岩 和男 | 元高知県植物辞典編纂委員（植物）                   |
| 委員     | 浜田 真尚 | 南国市文化財審議会 委員（文化財）                  |
| 委員     | 村上 隆夫 | 土佐のまほろば地区振興協議会 会長（市民代表）            |
|        |       |                                    |
|        |       |                                    |
| オブザーバー | 三宅 克広 | 文化庁文化財部記念物課史跡部門 文化財調査官             |
|        | 松田 直則 | 高知県教育委員会文化財課 専門企画員                 |
|        | 佐竹 智  | 高知県文化・国際課 チーフ（文化施設担当）              |
|        |       |                                    |
|        |       |                                    |
| 事務局    | 谷合 成章 | 南国市教育委員会生涯学習課 課長                   |
|        | 坂本 裕一 | 南国市教育委員会生涯学習課文化スポーツ係 係長            |
|        | 油利 崇  | 南国市教育委員会生涯学習課文化スポーツ係 主事            |
|        |       |                                    |
|        |       |                                    |
| 市関係課   |       | 南国市財政課                             |
|        |       | タ 企画課                              |
|        |       | タ 商工水産課                            |
|        |       | タ 都市計画課                            |

## 2) 保存管理計画における調査

保存管理計画策定にあたり、本補助事業において平成 22・23 年度に以下の調査を実施した。  
また、平成 22 年度からは、埋蔵文化財緊急調査費国庫補助で伝家老屋敷曲輪の発掘調査を開始している。これについては、別途報告書を予定している。

### ◇保存管理計画における調査

| 調査項目    | 内 容                                    | 主な成果等                         | 担 当                                   |
|---------|--|-------------------------------|---------------------------------------|
| 現況測量調査  | 現況地形測量                                 | 現況地形測量図<br>赤色立体図              | 株式会社<br>コンサルタント                       |
| 遺構・縄張調査 | 岡豊山の踏査を行い、発掘調査成果、既存縄張図を参考にしながら縄張図を作成する | 縄張図                           | 池田誠 氏<br>(中世城郭研究会)                    |
|         | 既往発掘調査成果の把握                            | 発掘調査年表<br>発掘調査位置図<br>遺構図 等    | 株式会社<br>景観設計                          |
| 植生調査    | 岡豊山の地形・地質、植物相、植生の把握                    | 植生図<br>地質図                    | 黒岩和男 氏<br>(元高知県植物辞典<br>編纂委員)<br>鴻上泰 氏 |
| 社会環境調査  | 史跡地に係る法令の整理、把握                         | 史跡指定範囲図<br>法令規制図<br>土地所有図     | 南国市教育委員会<br>株式会社<br>景観設計              |
| 景観調査    | 城跡内外の眺望、視点場の把握<br>景観阻害要素の把握            | 現況景観図                         | 株式会社<br>景観設計                          |
| 現況利用調査  | 岡豊城跡の整備履歴の把握、休憩施設、説明板等現況施設の分布、利用動線の把握  | 現況利用図                         | 株式会社<br>景観設計                          |
| 文献史料調査  | 岡豊城跡に係る文献、絵図、古写真等の整理、分析                | ※現時点では残存しておらず、今後、長期的な調査が必要である |                                       |

### 3) 計画策定の経過

保存管理計画策定委員会を平成 22 年度に 2 回、平成 23 年度に 3 回の計 5 回開催し、検討を進めた。平成 22 年度は、主に現況調査を実施し、現況把握および課題抽出を行った。平成 23 年度は、保存管理方針の検討、保存管理計画、整備・活用の基本的な方向性、岡豊城跡の運営及び体制について検討を行った。

#### ◇委員会開催の経過

| 日 程            |          | 主な協議内容   |
|----------------|----------|--|
| 平成<br>22<br>年度 | 第 1 回委員会 | 平成 22 年 9 月 29 日（水） <ul style="list-style-type: none"><li>・ 史跡概要の確認</li><li>・ 計画策定の進め方、日程</li><li>・ 保存管理計画の構成内容</li><li>・ 今後の協議事項</li><li>・ 現地視察</li></ul> |
|                | 第 2 回委員会 | 平成 23 年 2 月 3 日（木） <ul style="list-style-type: none"><li>・ 現況調査結果報告</li><li>・ 現況のまとめ・課題</li><li>・ 岡豊城跡の本質的価値について</li></ul>                                 |
| 平成<br>23<br>年度 | 第 3 回委員会 | 平成 23 年 7 月 22 日（金） <ul style="list-style-type: none"><li>・ 保存管理基本方針</li><li>・ 史跡を構成する要素の整理</li><li>・ 保存管理の地区区分と保存管理方法</li><li>・ 現状変更の取扱基準</li></ul>       |
|                | 第 4 回委員会 | 平成 23 年 11 月 11 日（金） <ul style="list-style-type: none"><li>・ 整備活用の基本的な考え方</li><li>・ 保存管理及び整備活用の体制</li></ul>  |
|                | 第 5 回委員会 | 平成 24 年 2 月 1 日（水） <ul style="list-style-type: none"><li>・ 保存管理計画 最終確認</li></ul>   |



会議風景



現地視察風景

## 第2章 計画の背景

### 1. 南国市の概要

#### 1) 南国市の位置・地形

岡豊城跡の所在する南国市は、東西に長い弓状の海岸線を有する高知県のほぼ中央部に位置する。高知市の東に隣接し、土佐町、本山町、香美市、香南市と接している。北緯 33 度 34 分、東経 133 度 38 分に位置し、市域は東西約 12 km、南北約 23 km、面積 125.35 km<sup>2</sup> を測り、土佐湾岸から山間部まで南北に細長い市域を形成している。人口は約 5 万人で、県下第 2 の都市である。

気候は、年を通じて温暖で多湿な気候で、年間平均気温 16.7°C、年間降水量約 1,932 mm（平成 21 年）である。

市域の北半分は四国山地より連なる山地が占め、その大部分は古生代ペルム紀の上八川層と白木谷層によって形成される。市域の北境界線付近では、上八川層の標高は約 800 m に達するが、南下するに従って次第に高度を下げ、白木谷層では標高 300 ~ 400 m となり、やがて標高 150 m 前後の丘陵となって、ついには平野に没してゆく。

市域の南半分は香長平野が広がり、太平洋に面している。香長平野は、高知平野の東部を占め、長岡郡と香美郡にまたがることからこう呼ばれる。太平洋に注ぐ物部川や浦戸湾に流入する国分川の堆積作用による扇状地と三角州により形成されており、県下有数の穀倉地帯が広がる。

平野部には、陣山、三畠山、坂折山、吾岡山等の標高 100 m 前後の孤立丘陵が点在しており岡豊城跡のある岡豊山もこれらに含まれる。香長平野は、舟入川を境に北側を古期扇状地、南側を新規扇状地に二分できる。古期扇状地は洪積世の最終氷期に形成された疊層堆積物で覆われており、長岡台地と呼ばれている。土佐国衙跡や土佐国分寺跡、比江廃寺塔跡などはこの長岡台地上に立地している。一方、新規扇状地は物部川の堆積作用による沖積平野であり、香長平野の大部分を占める。ここでは自然堤防がよく発達し、その上には南四国における弥生時代の拠点集落である田村遺跡群をはじめ、弥生時代の集落跡が多数分布している。



## 2) 南国市の社会環境

### ① 人口

南国市の人口は、平成 22 年 7 月末時点では 49,558 人、世帯数は 21,414 世帯であり、県下第 2 の都市である。昭和 50 年代から平成のはじめまでは人口、世帯数ともに増加してきたが、それ以降はほぼ横ばい状態となり、平成 17 年の人口は 50,758 人であり、近年は減少傾向にある。また、65 歳以上の老齢人口が約 2 割強を占めており、高齢化が進んでいる。

### ② 産業

南国市は香長平野の豊かな耕地と温暖な気候を利用した農業が盛んで、年間生産高が県内トップの高知の米どころである。かつては米の二期作の中心地であったが、国の減反政策もあり二期作は行われなくなり、現在は、7 月の中旬には刈り入れを始める全国有数の超早場米の産地として知られている。そのほかに、ビーマン、シットウなど、海岸部ではビニールハウスでの園芸作物が盛んで、冬も温暖な気候のもと、一年中メロンやスイカを味わえる観光農園もある。その他に海岸部のしらす、十市のヤマモモ、白木谷の四方竹など、豊かな農水産物が作られている。

製造業では、精密機械加工や 400 年の歴史を持つ土佐打刃物が盛んである。機械・金属製造の地場企業集団「テクノ高知」をはじめ、製造業の出荷額は年間約一千億円と伸びている。海外への輸出も年々増加傾向にある。

### ③ 交通

南国市は、高知自動車道南国 I.C、高知新港、高知龍馬空港といった陸・海・空三つの広域交通拠点を高速交通体系で結ぶ、交通網のトライアングルゾーンに位置している。

南国市へのアクセスは、航空機で東京から約 1 時間 15 分、大阪から約 40 分で結ばれている。鉄道では、JR 高知駅から土讃線で約 15 分、最寄駅は後免駅である。JR 高松駅からは、特急列車を利用して約 2 時間の距離である。平成 14 年には、県東部に延びる土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線が開業し、JR 線と後免駅で連絡し、交流人口が増加した。路面電車では、土佐電気鉄道を利用して、高知市のはりまや橋駅からごめん駅まで約 30 分かかる。自動車では、岡山から高知まで高知自動車道を利用して約 2 時間半の距離にある。

近年は、高知新港の一部供用開始、瀬戸大橋をはじめとした神戸・鳴門、尾道・今治 2 架橋ルートの開通、土佐くろしお鉄道の開通、空港拡張周辺事業等の交通網の整備、農産物需要拡大により、高知県の物流の拠点都市としての役割のほか、高知市のベッドタウンとしても発展してきている。

岡豊城跡への主な交通手段は自動車利用となっており、高知市中心部（JR 高知駅）より約 20 分、高知自動車道高知 I.C 又は南国 I.C より約 15 分、高知龍馬空港より約 20 分、JR 後免駅より約 15 分となっている。市内を南北に貫く国道 32 号線を利用してアクセスする。

路線バスは、高知市のはりまや橋・JR 高知駅から歴史民俗資料館行き終点下車で、1 日 3 便運行されている。その他に、領石、奈路、田井方面行き歴民館入口下車（1 ~ 2 便／時間）で徒歩 10 分となっている。後免駅から資料館行きのバスは運行されていない。

#### ④ 観光

史跡岡豊城跡内には高知県立歴史民俗資料館が立地しており、土佐の歴史・文化・くらしに関する展示のほか、「長宗我部展示室」が設置されている。市内には、四国八十八カ所霊場の第29番札所国分寺（国史跡・国重要文化財）と第32番札所禪師峰寺があり、お遍路さんが一年を通して訪れている。

平成20年11月には、国分川周辺の国道32号を中心としたエリアが、国土交通省の「日本風景街道—土佐のまほろば風景街道」として認定された。市内の主な観光行事としては、土佐のまほろば祭り（8月）やつらゆき時代まつり（11月）が挙げられる。

また、平成22年度から岡豊山さくらまつりや長宗我部フェスといった岡豊城跡と長宗我部氏を中心とした新しいイベントが開催され、多くの来訪者を得ている。

### 3) 南国市の歴史環境

南国市は、「歴史の宝庫」といわれ、県内でも遺跡数の多い地域であり、中世までの土佐における最も重要な地域であった。岡豊城跡の所在する北部地域は国分川流域に土佐国府跡、比江廃寺塔跡、土佐国分寺跡等の遺跡が集中し、現在では「まほろばの里」としてのまちづくりが行われている。

#### 旧石器・縄文・弥生・古墳時代

旧石器時代の遺跡として岡豊町小蓮の奥谷南遺跡が存在する。細石刃、細石核、ナイフ形石器、スクレイバー、尖頭器等の遺物の出土により、これまで空白地帯と称された香長平野周辺部の旧石器時代の様相が明らかになろうとしている。

縄文時代の遺跡は四万十川流域に比べ少ないが、奥谷南、栄工田、奥谷北等の遺跡が所在する。奥谷南遺跡では、草創期の陰起線文土器・隆帶文土器が出土し、中期末の貯蔵穴も検出された。栄工田遺跡では、後期から晩期にかけての土器が磨製石斧とともに出土している。

弥生時代の遺跡は、南四国における弥生時代の拠点集落である田村遺跡群をはじめ、平野部で集落跡が多数分布している。田村遺跡群では、物部川の自然堤防上に初頭の集落跡が検出され弥生文化伝播の姿を見ることができる。さらに前期の環濠に囲まれた集落と水田跡により集落と生産の場が確認されている。前期後半以降になると集落は拡散し平野部ばかりでなく山間部にも遺跡の立地が見られるようになる。田村遺跡群においては、中期から後期後半にかけても栄枯盛衰がありながらも集落は引き続き形成し香長平野における拠点的集落の位置を占め、地形・環境に恵まれた生活の場として求められた土地であったと考えられる。後期になると北部の長岡台地上に移り、竪穴住居跡が多数検出された東崎遺跡のような集落が出現し各地に散在する。

古墳時代は、同一丘陵上から、5世紀前半から6世紀前半の前期古墳である長歛古墳群が確認されている。後期古墳は、南国市岡豊町、久礼田、植田の平野と接する丘陵部が高知県最大の密集地である。なかでも小蓮古墳は県下最大の横穴式石室をもつ円墳であり、香長平野北部を中心とする有力豪族の墳墓と考えられている。22基の古墳からなる県下最大の群集墳である舟岩古墳群もこの地域に造営されている。なお、岡豊城跡のある岡豊山にも古墳が点在して

